

## 学校の在り方地区検討委員会（下北地区）

### 【第4回】概要

日時：令和8年5月19日（火）

9：30～11：30

場所：プラザホテルむつ

プラザホール

#### <出席者>

阿部委員、奥島委員、村上委員、曾根委員、岸委員、久慈委員、高瀬委員  
今井委員（進行役）

#### 1 開会

#### 2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

参考：学校配置シミュレーション

ア：学級減で対応した場合

イ：統合で対応した場合

○ 報告書（案）に2つの学校配置シミュレーションが記載されているが、これ以外に考えられるシミュレーションはあるか。

○ これまでに多くの委員から少人数学級編制を実施した上で学級減しないという意見が挙がっていたが、1ページに記載の削減学級数は県教育委員会の決定事項なのか。そうでなければ、この意見も掲載すべきだと考える。

→（事務局）現時点で決定したものではない。

○ 第1回会議から少人数学級編制を実施できないかという意見が出ていたので、案として入れてほしい。

○ 教員数が確保されるのであれば、少人数学級編制を実施するのが望ましい。

○ 少人数学級編制の実施を案として掲載するのは問題ないが、現に、少人数指導は行われている。

○ これまでも少人数学級は大事だと言ってきた。教育の質を保障するという意味でもお願いしたい。

○ 40人の生徒を確保することも大変な状況であり、少人数学級編制を実施することに賛成である。

→（事務局）法律上、教職員定数は収容定員等に基づき算定されることとなっているため、生徒数が減ればその見合いで教員数が減るものであるという前提で少人数学級編制を考えてほしい。

○ 私どもとしては、教員の加配を含む少人数学級編制を望んでいる。

- 法律を変えるのは難しいかもしれないが、県の特例措置として教員の加配を含む少人数学級編制を実施するという案として掲載してほしい。
- 国は地方創生と言うが、生徒数によって教員数が決まる今の状況が変わらなければ、地方の高校教育は廃れていく一方である。少人数学級編制に関する要望を叶えてもらいたい。

進行役から、教員の加配を含む少人数学級編制を実施した上で学級減を行わないという案を報告書へ掲載することを委員へ投げかけたところ承認された。

- 1ページの表では、令和10年度から10年間は大間高校が2学級で募集するように読み取れる。そうではないのであれば、誤解等がないよう正しく伝わるような記載とすべき。

- この地区では令和19年度から令和20年度にかけて中学校卒業予定者数が約50人減ることも視野に入れながら後期実施計画を考える必要がある。

また、後期実施計画期間では、大間高校を除くと地区の募集学級数は7学級と想定されていることから、普通科、専門学科、総合学科の大学科は、単純計算でそれぞれ約2学級規模となり、高校として体をなさないと考えられるので、学科の改編が必要である。

- 1ページの表の下北地区において、令和9年度と令和19年度を比較すると、中学校卒業予定者数と募集学級数の減少割合がアンバランスだが、少人数指導となるように意図しているのか。

→（事務局）そのように意図したものではない。

### 3 意見交換

#### (1) 学校の在り方に関する主な意見

- (4) その他の3つ目の○について、前段が記載されていないので、次のように追記してほしい。

「令和9年度以降の大湊高校の教育内容を保障するため、同校、田名部高校、統合校が相互に兼務発令を行い、多様な科目履修を実現することが不可欠であるとする。この対応に関しては、同校廃止後も同様の措置を継続し地区の教育内容の充実を図っていただきたい。」

#### (2) 全日制課程の学校規模・配置について

##### ① 学校配置シミュレーション

- 前回も話したとおり、統合校の教育活動が全く見えない状況だが、本日は資料が提示されるか。

→（事務局）資料として提供できるものはないが、学校案内等については、現在、高校で作成しているので、でき次第、提供することはできる。

- 3 (1) のタイトルが「委員の意見に基づく学校配置シミュレーション」となっているが、ア及びイの案について、委員はこのようなことを言っていないと理解している。

アの案については、第1回会議で記載のような発言はあったが、第2回会議では、「一般論として「どこかが減ればどこかが増える」と言っただけで、田名部高校を減らした方が良いという趣旨ではなかった。」と別の委員から発言があった。基となる発言をした委員が「田名部高校を1学級減らせ」とは言っていないので、「委員の意見に基づく学校配置シミュレーション」ではなく「事務局提案」とすべき。

一方で、オブザーバーの「田名部高校を1学級減らせば教育活動の充実に資する」という発言は非常に重く、教育活動の充実と言うのであれば我々はそれを是として応援すべきと考えている。ただし、「学級減に伴って教員数が減るのであれば充実は難しい」という話もあったので、教員の加配がセットでなければ軽々に良いとは言えない。

- 「教育内容を教えてもらえなければ考えられない」という発言に対して資料の提示がなかったり、「前回の発言の趣旨が違う」という発言があったにもかかわらずこのような形でシミュレーションとされ、発言が歪曲されたりしていると感じる。委員の発言は丁寧に扱ってほしい。

- イの案の「シミュレーションに関する意見」の項目に記載しているような発言はあったが、「将来的には」とあるので、私は少なくとも後期実施計画においてのことであり、前期実施計画で統合すべきということではないと理解した。発言した本人に確認したところ、そのとおりだということで、委員としてはイの案は意図したものではない。

よって、ア及びイの案は、委員の意見に基づいていないので、「事務局提案」と表記すべき。

- アの案については、意見の記載内容に違和感があった。田名部高校の募集人員を減らした方が良いと言っているように解釈されるので、この表記は消した方が良いと思う。

- 第2回で提示されたアの案について、教育の質を保障するための方策としては賛同する旨の発言をしたと思う。また、イの案についても誰かが話したと記憶している。なので、事務局が一方的に示したのではなく、委員が話したことを汲んで事務局がシミュレーションとして示したものと理解している。

ただし、委員の意図をしっかりと確認せずに示されたことに対して懸念がある委員もいるのかもしれない。

- アの案の「シミュレーションに関する意見」の項目の◇に記載していることは、オブザーバーである校長の発言を踏まえて私が発言したものだ。この学校配置に対して、別の委員から提案があったものではない。
  
- 「委員の意見に基づく」という表現に違和感があるとのことだが、事務局としてどう考えるか。
  - (事務局) 学校の在り方地区検討委員会としての報告書に事務局案を掲載することはふさわしくないの、このシミュレーション自体を掲載すべきか否かを話し合っていたきたい。イの案についても、前期実施計画での話ではないという意図だったのであれば掲載しなくて良いのではないかと、また、委員の意見の意図が正しく反映されていないということであれば、記載内容を修正すべきではないか、ということをお場で協議いただきたい。
- アの案の「シミュレーションに関する意見」の○の表現を修正するか、もしくは削除するということも考えられるがどうか。
- このままでは、委員から田名部高校を1学級減らすべきという意見があったと読み取られるが、それは本意ではないので、「委員の意見に基づく」の部分を削除して「学校配置シミュレーション」にする等の修正をすべき。
  - その上で、アの案の「シミュレーションに関する意見」の項目の○の記載は一般論としての話であるという認識なので、削除した方が良いと思う。
- (事務局) 「委員の意見に基づく」の部分は削除する方向で考えたい。
  - また、第3案として少人数学級編制の拡充による対応が提案されたが、その場合、未実施の田名部高校が対象になるが、仮に同校を35人学級としても、地区としての1学級減は避けられない可能性もある。
- 難しいとは思いますが30人学級としてはどうか。指導面でのメリット・デメリットをオブザーバーに伺いたい。
  - (田名部高校) 少人数学級編制と募集人員の減が一緒に議論されているようだが、私としては募集人員を40人減らすものと捉えている。その上で、募集人員の減に伴い教員数も減ることは承知しているが、教員数を維持することで、少人数学級編制や習熟度別の授業展開など充実できるのではないかと考えており、35人ならどう、30人ならどうという捉え方はしていない。
  - (大湊高校) 入学してから、生徒が望む学びの目的等に応じて少人数指導とすることは有効だと思うが、そのことと募集人員の減は違うものだと思う。目的を達成するために適切な教員配置が必要ということ。
  - (むつ工業高校) 教員数がきちんと措置されている状況であれば、生徒に対応した教育活動を展開できる。少人数学級編制の実施に伴い教員数が減ることで、結果的に教員も生徒も苦しい状況になるのは良くない。
  
- 教員数の確保が一番必要という話かと思う。難しいということは承知しているが、青森県がこどもまんなかを謳っているのであれば、県独自の対応をお願いしたい。

- (事務局) アの案について、賛成する意見がないため掲載しないということも考えられるが、確認いただきたい。
- 選択肢がなければ県の教育委員会会議が充実したものにならないと考えられることから、ア及びイの案に加え第3案を掲載すべき。
- (事務局) 学校の在り方地区検討委員会は事務局案を提示する場ではないことから、報告書に事務局案を掲載することはできないため、アの案を委員から出た意見として掲載して良いかが論点になる。例えば、アの案の「シミュレーションに関する意見」の項目に、先ほど意見があった「オブザーバーの意見を受け止めると、田名部高校の1学級減も考えられる」旨を掲載することも考えられる。
- 今、提案のあったようなことを意見として記載するなど工夫した上で、アの案を残すべき。
- (事務局) アの案は、委員の意見に基づく学校配置のシミュレーションではなく、事務局提案のシミュレーションとして掲載すべきということか。
- 単に「学校配置のシミュレーション」と表記するのであれば、委員や事務局が提案したということに触れる必要はない。
  
- シミュレーションの学校配置に、令和14年度からなるということか。
- (事務局) 令和10年度から令和14年度までの間である。
  
- イの案について、令和9年度に開校する統合校が、令和10年度から令和14年度までの間にまた田名部高校と統合するという事なので、特に進路を決定する中学3年生の子どもたちに混乱を来すのではないかと。令和14年度以降の将来を見越した対応として有効ではあるが、現時点の案としてはどうなのかと思っている。今回は案として記載せず、このような話が出ていたという記載に留め、後期実施計画の際に参考とすることも考えられる。
- 我々の総意としては第3の案を強く推すが、様々な検討の経過として3つ案を記載することで良い。その上で、シミュレーションに関する意見の項目に「統合校が設置されたばかりなので、生徒、保護者に著しい混乱を来すおそれがある」「後期実施計画においては有効な選択肢となり得る」旨を記載すれば良い。
  
- これまでに出た意見や考えということであれば、3つの案を記載して良いと思う。
- 報告書(案)に記載しているシミュレーションは、これまでの会議の発言を生かしたものだと思う。これをたたき台にして意見交換してきたので、3つの案を県教育委員会に提示して検討してもらおう方がこれまで行ってきたかがある。

○ 3つの案を記載し、意見を追加することで、選択肢が増え、意見交換の経過がわかる。イの案については、令和20年度以降のことである旨を記載してほしい。

○ イの案に関して、1校2キャンパス制ではなく、2校の包括的・一体的運営としても良い。小・中学校では、1つの学校より2つの学校の方が教員配置が多いことから、2つの高校を共同運営していくことで生徒にとってプラスになると考える。このような考え方を後期のたたき台として残しておいてほしい。

進行役から、改めて、アとイの案及び教員の加配を含む少人数学級編制を実施した上で学級減を行わないというウの案を報告書へ掲載することを委員に投げかけたところ承認された。

## ② シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

○ 未来デザイン科については、統合校に設置することも考えられる。

## (3) 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

## (4) その他の意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

本日の意見交換を踏まえ報告書を整理し、委員へ書面で確認した後、最終的な確認は進行役一任とすることで委員から承認された。

事務局が、地域共育校に設置する地域協議会における協議事項について、青森県立学校高等学校魅力づくり推進計画基本方針では、学級減や募集停止を含む学校の在り方とすることとしているが、当該校の学級増について協議の議題に挙げることを妨げるものではない旨説明した。

## 4 閉会